

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]

(平成 27 年 8 月解析分)

1 今月のトピックス ～「手足口病」の流行に注意しましょう！！～

乳幼児を中心に、毎年、夏季に流行する手足口病の患者報告数が、今年の夏も高い水準となっています。感染を拡大させないよう、石けんと流水による手洗いの励行をお願いします。

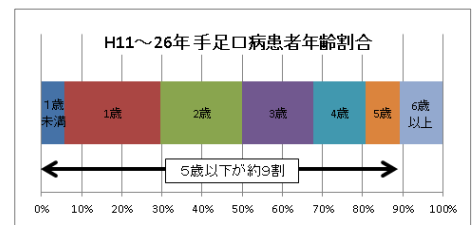
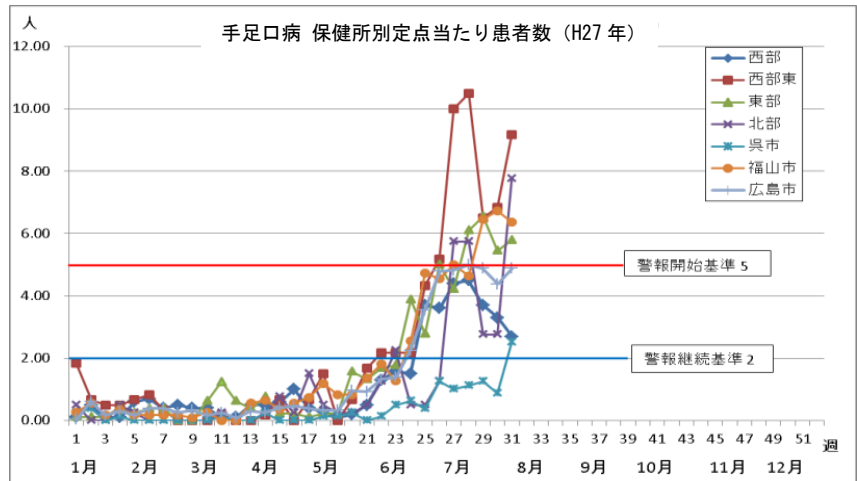
■ 県内の発生状況

広島県では、今年、県内 72 カ所の定点医療機関からの患者報告数が 5 月から増加し始め、第 26 週（6 月 22 日～6 月 28 日）に、西部保健所と東部保健所の管内で警報開始基準値（定点当たり 5）を上回ったため、7 月 2 日に「手足口病警報」を発令しました。

第 31 週（7 月 27 日～8 月 2 日）時点でも、西部東、東部、北部及び福山市の 4 保健所管内で警報

開始基準値（定点当たり 5）を超えており、また、他のすべての保健所管内で警報継続基準値（定点当たり 2）を上回るなど、感染予防に注意が必要な状態が続いています。

なお、本県の手足口病患者の約 9 割は、5 歳以下の乳幼児となっています。保育園や幼稚園では、特に注意が必要です。



■ 手足口病について

< 概要 > 3～5 日の潜伏期間において、口腔粘膜及び手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性のウイルス性感染症で、病原体は、コクサッキーウイルス A 6 型、A 16 型、エンテロウイルス 71 型などです。

発熱は約 3 分の 1 にみられますが、高熱になることはあまりありません。一般的に軽症で、発疹は 3～7 日で痂皮（かさぶた）を残さずに消失します。

稀ですが、髄膜炎、脳炎などの中枢神経系の合併症を生じることがあります。

< 感染経路 > 患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスによって感染する飛沫感染や、水疱の内容物や便に排出されたウイルスが手などを介し、口や眼などの粘膜に入って感染する経口・接触感染があります。

< 予防対策 > 感染予防に有効なワクチンはなく、手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。

なお、発疹が消えた後も、2～4 週間は便にウイルスが排泄されるため、手洗いを徹底し、幼稚園、保育園など集団生活では、タオルの共用を避けましょう。

< その他 > 特別な治療法は無く、症状に応じた対症療法が行われます。

2 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成27年7月分(平成27年7月6日～平成27年8月2日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	6	0.01	0.01	↓	11	ヘルパンギーナ	844	2.93	2.50	↑
2	RSウイルス感染症	43	0.15	0.15	↑	12	流行性耳下腺炎	294	1.02	0.74	→
3	咽頭結膜熱	141	0.49	0.75	↓	13	急性出血性結膜炎	4	0.05	0.01	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	605	2.10	1.18	↘	14	流行性角結膜炎	82	1.08	1.01	→
5	感染性胃腸炎	1,356	4.71	3.66	↘	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.02	
6	水痘	74	0.26	0.86	↘	16	無菌性髄膜炎	3	0.04	0.06	
7	手足口病	1,402	4.87	4.36	↗	17	マイコプラズマ肺炎	20	0.24	0.24	→
8	伝染性紅斑	129	0.45	0.22	↑	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.01	
9	突発性発しん	158	0.55	0.59	→	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.02	—	↓
10	百日咳	9	0.03	0.05							

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成27年7月分(7月1日～7月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	62	2.70	2.34	↗	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	77	3.67	5.65	↗
21	性器ヘルペスウイルス感染症	14	0.61	0.89	↘	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	0.43	0.79	
22	尖圭コンジローマ	15	0.65	0.80	↗	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	4	0.19	0.11	
23	淋菌感染症	20	0.87	1.23	↗						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)

- 急増疾患
 - RSウイルス感染症(0.04 → 0.15)
 - 伝染性紅斑(0.21 → 0.45)
 - ヘルパンギーナ(1.02 → 2.93)
- 急減疾患
 - インフルエンザ(0.11 → 0.01)
 - 咽頭結膜熱(1.07 → 0.49)
 - 感染性胃腸炎(ロタウイルス)(0.12 → 0.02)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患,月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	36	結核(36)〔西部保健所(3),西部東保健所(2),東部保健所(2),北部保健所(2),広島市保健所(13),呉市保健所(7),福山市保健所(7)〕
三類	10	腸管出血性大腸菌感染症(10)〔北部保健所(2),広島市保健所(7),福山市保健所(1)〕
四類	15	A型肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕, レジオネラ症(8)〔北部保健所(1),広島市保健所(5),呉市保健所(1),福山市保健所(1)〕, 重症熱性血小板減少症候群(2)〔広島市保健所(1),呉市保健所(1)〕, 日本紅斑熱(4)〔東部保健所(2),広島市保健所(1),呉市保健所(1)〕
五類全数	15	アメーバ赤痢(2)〔広島市保健所(1),呉市保健所(1)〕,ウイルス性肝炎(A,E型を除く)(1)〔広島市保健所(1)〕, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(6)〔西部東保健所(1),東部保健所(3),広島市保健所(2)〕, 後天性免疫不全症候群(1)〔福山市保健所(1)〕,侵襲性肺炎球菌感染症(1)〔東部保健所(1)〕, 水痘(入院例)(2)〔呉市保健所(2)〕,梅毒(1)〔西部保健所(1)〕,破傷風(1)〔広島市保健所(1)〕